

令和8年5月21日

山形県さくらんぼ作柄調査委員会

令和8年産さくらんぼの予想収穫量について

令和8年産さくらんぼの予想収穫量について、5月21日の「山形県さくらんぼ作柄調査委員会」（委員長：県農林水産部技術戦略監、委員：JA全農山形、農業共済組合、東北農政局山形県拠点等）で検討した結果、下記のとおりとなりましたので、お知らせします。

記

1 作柄調査結果の概要

- (1) 調査日 令和8年5月19日（火）
- (2) 調査園地数 県内主要産地48園地
- (3) 調査結果
花束状短果枝当たりの着果数^{※2}：1.5果（前年1.3果、平年1.7果）

2 予想収穫量

○予想収穫量は、10,200～11,100トン（前年比123～134%）

【参考】・前年収穫量：8,310t（平成以降最も少ない）

・過去10年の平均収穫量（最大・最小を除く）：12,100t

- ・結実対策として、ミツバチの導入や人工受粉の実施、切り枝の設置等が例年以上に行われたことに加え、開花期の天候に恵まれたことから、前年より結実が良好であった。
- ・凍霜害や結実対策の実施状況が結実に大きく影響しており、着果程度の園地による差が例年より大きい。
- ・4月9日の降霜により、東根市や天童市、上山市等の一部の地域で被害を受け、着果量が少ない園地がみられる。
- ・双子果の発生は、「紅秀峰」を中心に例年より多い。
- ・なお、予想収穫量には、結果樹面積の減少に伴う収穫量の減少も含んでいる。

3 収穫盛期の見込み

- 「佐藤錦」：6月11日～15日頃（前年より2日程度、平年より7日程度早い）
- 「紅秀峰」：6月17日～21日頃（前年より2日程度、平年より7日程度早い）

4 今後の対応等

- 6月上旬に補完調査を実施し、降雨や高温等の影響により、今回の予想収穫量から大きな変動が見込まれる場合は、改めて公表する。
- 高品質生産・厳選出荷に向けて、双子果や着果量の多い園地における摘果作業、適切な着色管理、高温対策、適期収穫などの指導を徹底する

※2 「花束状短果枝（かそくじょうたんかし）当たりの着果数」について



「花束状短果枝」＝花が咲いて実がなる極短い枝のこと。花の時期にはこの短い枝が花の束に見えるため「花束状短果枝」と呼ぶ。この図では3つの花束状短果枝に合計6個の実がなっているため平均着果数は2果となる。